

子育て支援ニーズ調査の結果で 注目した内容について

(1) 調査の目的

子育て支援に関する施設やサービスの利用状況、今後の利用希望等の子育て支援サービスに関するニーズを把握するために実施。

(2) 調査の概要

調査対象	市内在住の「就学前児童」の保護者 及び「小学生」の保護者
調査期間	令和6年1月31日～2月22日

■ 注目した点（その１）

○行政サービスの利用状況等（①:就学前保護者 ②:小学生保護者）

産後ケア（宿泊型）①		認知度:31%	利用経験:1%	利用意向:14%
出産後の母親と乳児が心身を休めながら、育児相談や授乳支援の指導を指定機関で宿泊して受けられるサービス。出産後１年未満の子どもと母親が対象。				
産前・産後ヘルパー ①		認知度:33%	利用経験:6%	利用意向:15%
産前（母子健康手帳所持者）、産後（12週以内）であり、体調不良などで家事や育児を行うのが難しい世帯に対してホームヘルパーを派遣。				
ファミリー・サポート・センター	①	<u>認知度:57%</u>	<u>利用経験:7%</u>	利用意向:33%
	②	<u>認知度:60%</u>	<u>利用経験:13%</u>	<u>利用意向:16%</u>
仕事や用事等で一時的に子どもの世話ができないときに、事前登録制による手助けが必要な方（依頼会員）と手助けできる方（提供会員）をマッチングするもの。				

■ 注目した点（その１）

○ファミリー・サポート・センターについて（令和６年度実績）

（１） 会員数

依頼会員	提供会員	両会員
276名	<u>43名</u>	9名

（２） 主な依頼内容

習い事への送迎	55%	保育園・幼稚園への送迎	25%
放課後児童クラブへの迎え	5%	保護者外出時の援助	4%

援助を受けたい依頼会員はいるが、
提供会員・両会員ともに慢性的に不足している

■ 注目した点（その１）

○ １つ目のテーマ

～身近なつながりが生まれると、まちはもっとあたたかくなる！～

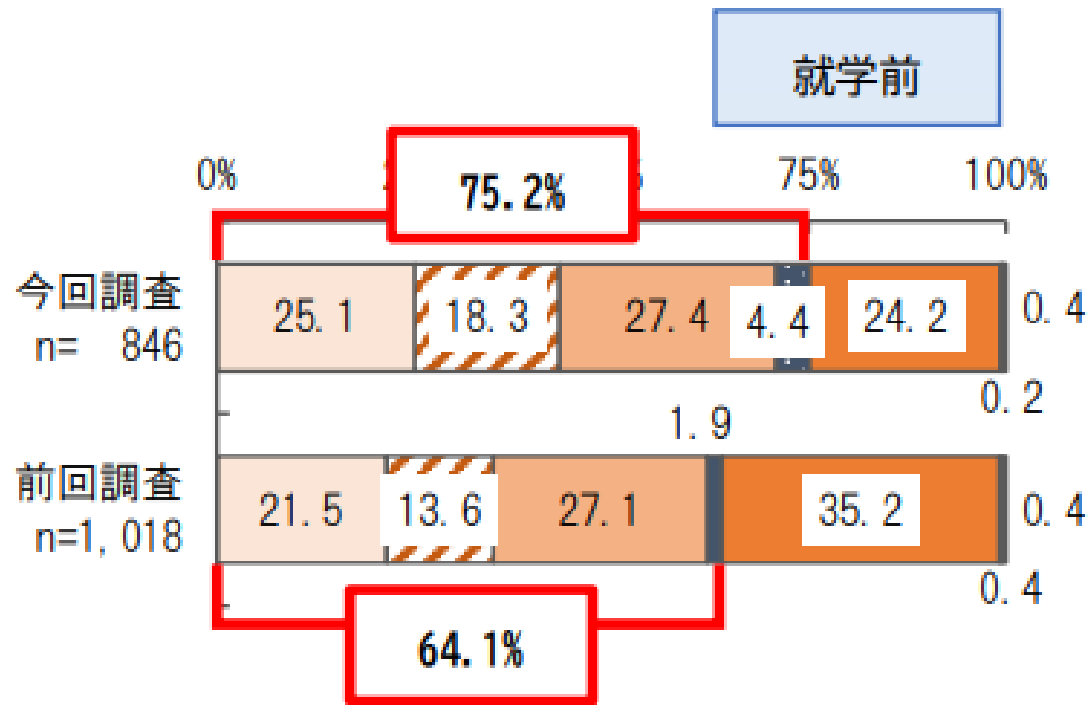
清須ファミリー・サポート・センターの 提供会員（両会員）不足について考える

<意見出しの例>

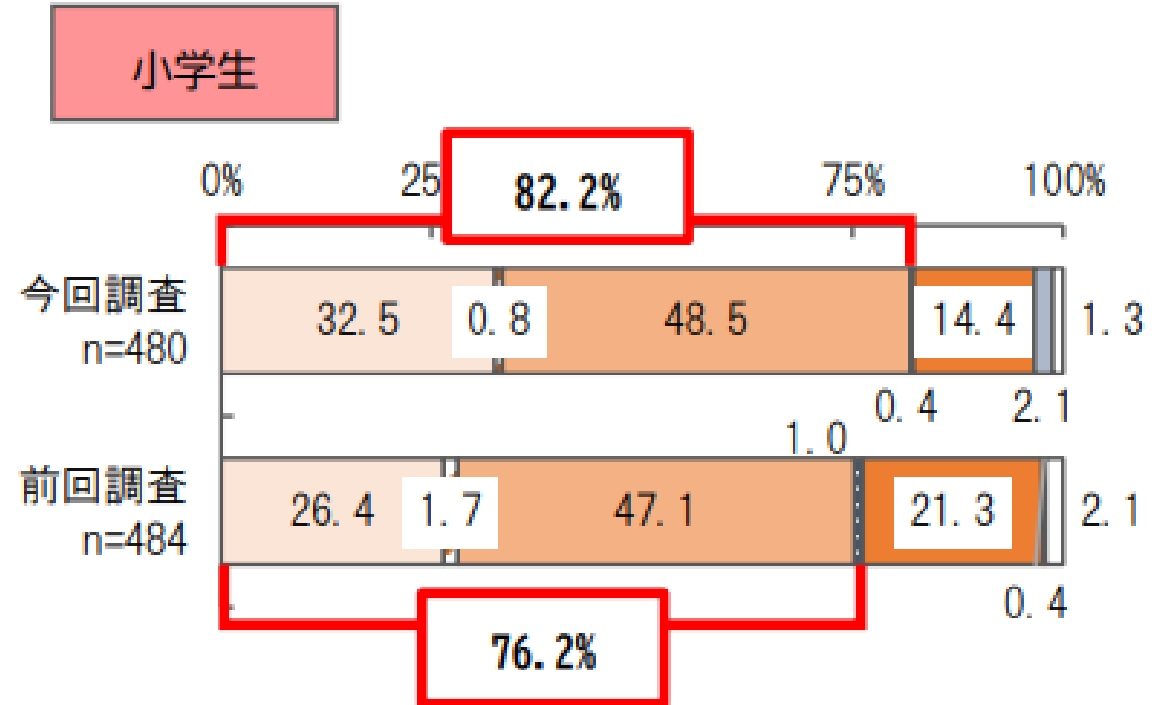
- ・ 提供会員として登録することに対してハードルを下げるには・・・
- ・ 担い手となりそうなターゲット層は・・・
- ・ 活動への不安や責任面の懸念を取り除くには・・・

■ 注目した点（その2）

○母親の就労状況



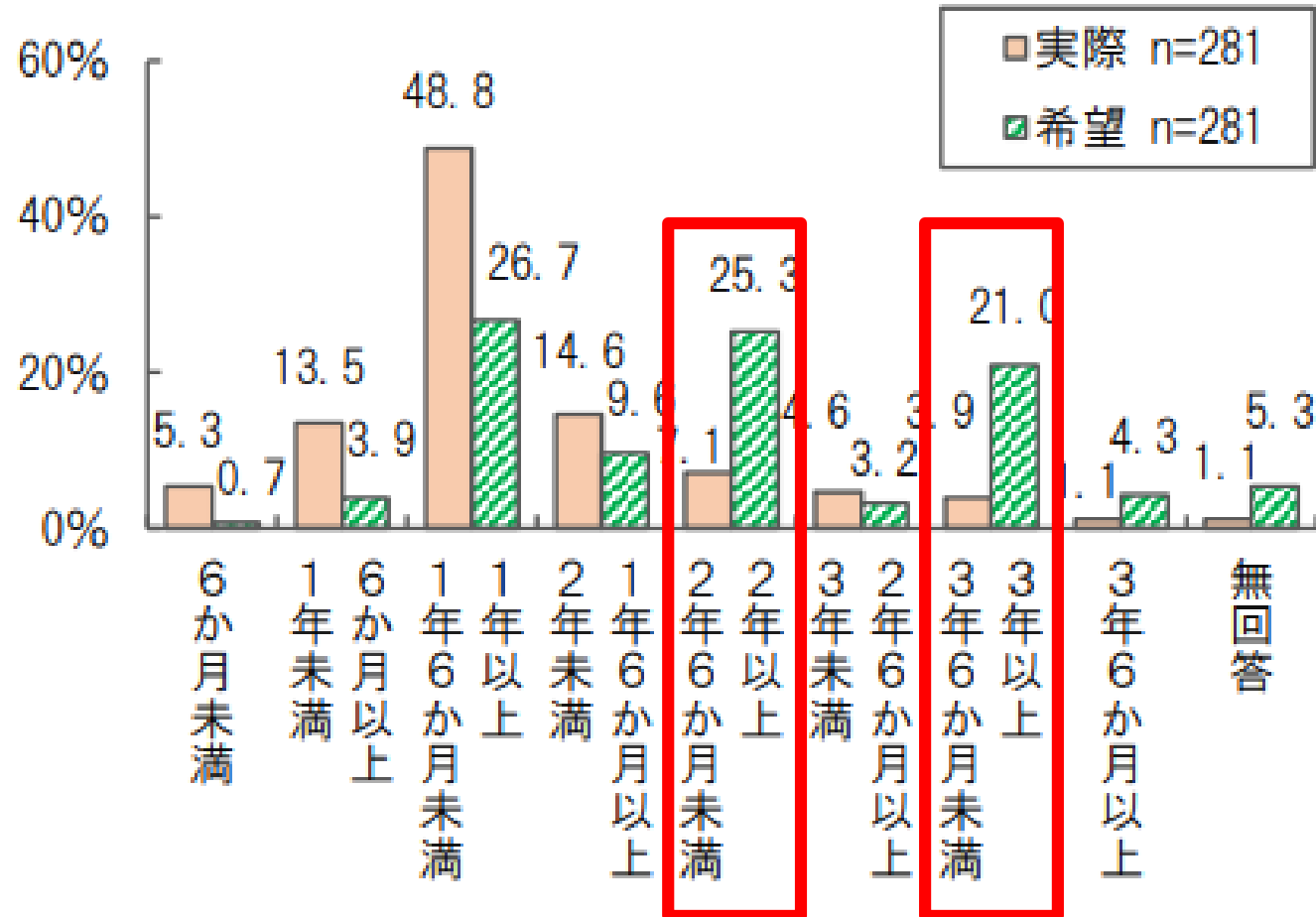
- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▨ フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である



- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

■ 注目した点（その2）

○母親の育児休業の取得期間（実際の取得期間と希望する期間）



■ 注目した点（その2）

○市に期待すること

内 容	今回調査	前回調査
子育てのための経済的支援	76.0%	67.0%
	9.0ポイント増加	
仕事と子育ての両立や 育児休業の取得促進等企業に対する働きかけ	45.7%	43.5%
	2.2ポイント増加	

■ 注目した点（その2）

○ 2つ目のテーマ

～地域がチームになったら、子育てはもっと楽しい！～

子育てを、チームで。

地域主体で子育てを支える仕組みづくりを考える

<意見出しの例>

- ・ 一つの家庭に何人かの地域住民がつながる仕組みはできないかな・・・
- ・ 地域に住んでいる学生を活用して何かできないかな・・・
- ・ 地元企業の社員が子育て世帯を応援する仕組みはできないかな・・・
- ・ 企業や商店に子どもを預けられる仕組みはできないかな・・・